

第42回全国高等学校柔道選手権大会 東北地区大会実施要項



と き 令和2年1月25日（土）・26日（日）

ところ 八戸市体育館

主 催 東北柔道連盟・東北高等学校体育連盟

共 催 青森県教育委員会・八戸市

後 援 （公財）青森県スポーツ協会

主 管 青森県柔道連盟

東北高等学校体育連盟柔道専門部

青森県高等学校体育連盟

第42回全国高等学校柔道選手権大会東北地区大会要項

1 競技日程

大会1日目（団体試合）1月25日（土）		大会2日目（個人試合）1月26日（日）	
1 役員・選手整列完了	9：25	1 役員・選手集合	9：00
2 開会式	9：30	2 審判員打ち合わせ	9：10
3 競技開始	10：00	3 競技開始	9：30
4 表彰式		4 表彰式・閉会式	

2 会場

『八戸市体育館』 〒031-0073 青森県八戸市大字売市字遊興下3
TEL 0178-22-7181 FAX 0178-22-7183

3 競技規則

- (1) 国際柔道連盟試合審判規定(2018～2020)ならびに（公財）全国高体連柔道専門部申し合わせ事項による。
- (2) 団体試合
 - ア 試合時間は3分間とする。（ただし、決勝は4分）
 - イ 「優勢勝ち」の判定基準は「技あり」または「僅差」（「指導」差2）以上とする。
 - ウ チームの内容が同等の場合は代表戦を行う、代表戦の方法は「4競技方法」で定める。
- (3) 個人試合
 - ア 試合時間は3分間とする。
 - イ 「優勢勝ち」の判定基準は「技あり」または「僅差」（「指導」差2）以上とする。
 - ウ 試合終了時に得点差がない場合、もしくは「指導」差が1以下の場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行う。
- (4) 「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、勝敗を決する。延長戦で「指導」の累積により両者が「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、必ず勝敗を決する。
- (5) 柔道着コントロールは開会式終了後、一斉に行う。試合中に違反が発覚した場合は、「反則負け」となる。
- (6) その他、上記以外については大会本部にて審議する。

4 競技方法

- (1) 男子団体試合
 - ア トーナメント戦で行う。
 - イ 各チーム間の試合は、「勝ち抜き試合」とする。
 - ウ 各チーム5名で行い、試合毎のオーダー変更を認める。ただし、当日試合に出場する選手は最低3名いなければならない。
 - エ 大将同士が「引き分け」の場合は、代表選手を任意で選出して代表戦を行う。代表戦の優勢勝ちの判定基準は「技あり」または「僅差」（「指導」差2）以上とし、試合終了時に得点差がない場合、もしくは「指導」差が1以下の場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行う。
 - オ 延長戦においては、「技あり」以上もしくは「指導」の数に差が出た時点で勝敗を決する。

(2) 女子団体試合

- ア トーナメント戦で行う。
- イ 各チーム間の試合は、「点取り試合」する。
- ウ 各チーム規定の体重別順に3名で行い、試合ごとのオーダーの変更は行わない。ただし、当日試合に出場する選手は最低2名いなければならない。
- エ 体重区分は次の通りとする。
先鋒：52Kg以下、中堅：63Kg以下、大将：無差別、補欠は該当する体重区分に出場できる。
- オ トーナメント戦の勝敗の決定は次による。
 - ① 勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - ② ①で同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - ③ ②で同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - ④ ③で同等の場合は、代表戦を行う。
代表戦は、引き分けの対戦の中から抽選で選び、ゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。
代表戦の優勢勝ちの判定基準は「技あり」または「指導」差1以上とする。また、両チームが負傷などで2名しかおらず、引き分けの対戦がない場合などは、代表選手をすべての対戦の中から抽選して、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行う。
 - ⑤ 代表戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、必ず勝敗を決する。

(3) 個人試合

- ア 男子・女子とも体重別（4階級）及び無差別とする。
- イ 試合は、トーナメント戦とする。
- ウ 延長戦においては、「技あり」以上もしくは「指導」の数に差が出た時点で勝敗を決する。

5 参加資格

- (1) 選手は、学校教育法第1条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍する生徒であること。
- (2) 選手は、各県高等学校体育連盟に加盟している生徒で、当該競技要項により東北大会参加の資格を得た者。
- (3) 令和元年度、各県柔道連盟を経て、(財)全日本柔道連盟に登録を完了した者。
- (4) 年齢は、平成13年4月2日以降に生まれた者（令和元年4月2日現在、18歳未満であり、第1・2学年に在籍）同一学年での出場は1回限りとする。
- (5) チームの編成において、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。
- (6) 転校後6ヶ月未満の者は参加を認めない。（外国人留学生もこれに準ずる。）ただし、一家転住等のやむを得ない場合は、各都道府県高等学校体育連盟会長の許可があればこの限りではない。
- (7) 出場する選手は、あらかじめ健康診断を受け、在学する学校の校長および所属する各県高等学校体育連盟会長の承認を必要とする。
- (8) 参加資格の特例については、「全国総体参加資格」に準ずる。
- (9) 外国人留学生については、卒業を目的として入学していること。（短期留学は認めない。）
- (10) 統廃合の対象となる学校については、当該校を含む合同チームによる参加を認める。
- (11) 「脳しんとう」に関する扱いは以下のとおりとする。
 - ①大会1ヶ月以内に脳しんとうを受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
 - ②大会中、脳しんとうを受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。なお、至急、専門医（脳神経外科）の精査を受けること。
 - ③練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
 - ④当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
- (12) 皮膚真菌症（トングランス感染症）については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。

(13) 監督・引率について

- ①引率責任者は、団体の場合は校長の認める当該校の職員とする。個人の場合は校長の認める学校の職員とする。また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則 78 条 2 に示された者）も可とする。但し、「部活動指導員」に引率を委嘱する校長は、都道府県高体連会長に事前に届け出る。
- ②監督、コーチ等は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険（スポーツ安全保健等）に必ず加入することを条件とする。

6 参加制限

(1) 団体試合は、各県男女とも 4 校とする。チーム編成は以下の通りとする。

- ア 男子は、1 校 1 チームとし、監督 1 名、マネージャー 1 名、選手 7 名、計 9 名とする。
ただし、最小限監督 1 名、選手 3 名いなければならない。
- イ 女子は、1 校 1 チームとし、監督 1 名、マネージャー 1 名、選手 5 名、計 7 名とする。
ただし、最小限監督 1 名、選手 2 名いなければならない。
- ウ チームにおける外国人留学生の人員は、1 名までとする。
- エ 男子チームと女子チームの監督を、兼ねることはできない。

(2) 個人試合（男子）

- ア 各県の編成は、監督 1 名、無差別 4 名、8 1 kg 級 4 名、7 3 kg 級 4 名、6 6 kg 級 4 名、6 0 kg 級 4 名の合計 2 1 名とする。
- イ 選手は団体試合と個人試合を兼ねてもよい。
- ウ 外国人留学生の参加人数の制限は設けない。

(3) 個人試合（女子）

- ア 各県の編成は、監督 1 名、無差別 2 名、6 3 kg 級 2 名、5 7 kg 級 2 名、5 2 kg 級 2 名、4 8 kg 級 2 名の合計 1 1 名とする。
- イ 選手は団体試合と個人試合を兼ねてもよい。
☆女子団体・先鋒（5 2 kg 以下に登録した場合）
個人は、4 8 kg 級・5 2 kg 級・無差別のいずれかに登録できる。
☆女子団体・中堅（6 3 kg 以下に登録した場合）
個人は、4 8 kg 級・5 2 kg 級・5 7 kg 級・6 3 kg 級・無差別のいずれかに登録できる。
- ウ 外国人留学生の参加人数の制限は設けない。

(4) 参加申込時に団体及び個人試合で不参加があった場合は、開催県で補充することができる。

7 表彰

- (1) 団体試合は男女 3 位まで、各 4 チームを表彰する。優勝校には、東北柔道連盟杯を授与する。
ただし、持ち回りとする。（レプリカを授与）
- (2) 団体試合優秀選手には、男子 7 名、女子 5 名を選考し表彰する。
- (3) 個人試合は男女各階級 3 位まで、各 4 名を表彰する。

8 計量

- (1) 女子団体試合及び個人試合出場者は、次により計量を行う。
- (2) 日 時：令和 2 年 1 月 2 4 日（金）
場 所：八戸市体育館
非公式計量：1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 0 0
公式計量：1 4 : 0 0 ~ 1 4 : 5 0（1 回のみ）

9 参加申し込み

(1) 申し込み方法

所定の用紙に必要事項を記入し、Eメール及び、校印押印のうえ郵送にて下記宛に申し込むこと。

(2) 青森県高等学校体育連盟ホームページ (<http://www.tosei-w.asn.ed.jp/>) より、所定のシートをダウンロードし、2部作成し、Eメールで送信後、1部を控えとし、1部を校印押印のうえ下記宛に申し込むこと。

(3) 申し込み先 (大会事務局)

八戸工業大学第一高等学校 佐藤 雅人 宛
〒031-0822 青森県八戸市白銀町右岩淵通7の10
TEL 0178-33-5121 FAX 0178-34-3942
Eメールアドレス (masahito@kodai1.ed.jp)

(4) 申し込み期限 令和元年12月20日(金)

10 参加料

(1) 団体試合 1チーム 23,000円

(2) 個人試合 1名 2,500円

(3) 参加料は、下記の口座に12月20日(金)までに振り込むこと。振り込み手数料は各学校負担とする。

振込先 青森銀行 湊支店(302) 普通預金(3114650)

「第42回全国高等学校柔道選手権東北地区大会 事務局 前田 英貴」

11 組み合わせ抽選

組み合わせ抽選については、東北高体連柔道専門部委員長会議(令和元年10月11日)にて、別紙のとおり決定済みである。

12 会議日程

令和2年1月24日(金) 会場：八戸市体育館 会議室

(1) 審判会議 15:00～

(2) 監督会議 16:00～

(3) 委員長会議 17:00～

13 練習会場および練習時間

(1) 会場 八戸市体育館・八戸市武道館

(2) 時間 令和2年1月24日(金) 13:00～17:00

1月25日(土) 8:00～13:00

14 宿泊

希望校に次により宿泊を斡旋する。

(1) 宿泊料金

詳細は別紙『第42回全国高等学校柔道選手権大会東北地区大会宿泊・お弁当のご案内』による。

弁 当 700円(お茶付・税込)

役員・審判員 8,800円(1泊朝食付き・税込)

(2) 申し込み方法

所定用紙により2部を作成し、1部を控えとし、1部をFAX若しくは郵送にて下記へ申し込むこと。

(3) 申し込み先

「株式会社日本旅行東北 八戸支店」〒031-0031 青森県八戸市番町25クマガイビル2階
TEL 0178-44-2241 FAX 0178-43-1067

- (4) 宿泊申し込みについては、全て学校長の責任において申し込むこと。
- (5) 宿泊申し込み期限 令和元年12月20日(金)
- (6) 宿泊料金と弁当代は 令和2年 1月21日(火)までに所定の口座に振り込むこと。
ただし、役員・審判員は大会会場にて担当者(日本旅行 臨時デスク)へ直接支払うこと。
各県委員長、審判員の宿舎は本部宿舎とする。ただし、引率業務の審判員は別宿舎とする場合がある。

本部宿舎：「 ダイワロイネットホテル八戸 」 〒031-0086 青森県八戸市八日町1-1
TEL 0178-73-2555 FAX 0178-73-2556

15 諸連絡

- (1) 参加申し込み後の選手変更は、令和2年1月24日(金)の14:00までに、大会事務局へ所定の用紙により届けなければならない。
 - ア 団体試合参加申し込み後の選手変更は、1名に限り認める。
 - イ 個人試合参加申し込み後の選手変更は、正当な理由がある場合に限り認める。
- (2) 競技中の疾病・傷害等の応急処置は主催者側で行うが、その後の責任は負わない。なお、選手は、必ず健康保険証を持参すること。
- (3) 女子団体試合の計量結果は、監督会議終了後に配布する。個人試合の計量結果は、監督会議で報告する。
- (4) 選手は、必ず引率者に引率され、引率責任者は選手の行動について責任を負うものとする。
- (5) 参加料および参加に必要な経費は、全て参加者の負担とする。
- (6) 全ての選手は、試合規定に従い、ゼッケンを柔道衣の背に縫い付けなければならない。
- (7) 不測の事態が生じた場合は、各県委員長が協議し、事後の処置を決定する。
- (8) 優勝杯返還：前年度優勝校 男子：田村高等学校(福島県) 女子：盛岡南高等学校(岩手県)